

ニュース

九州新幹線 全線開業から3カ月

博多ー熊本間の乗客35%増

3月12日の九州新幹線鹿児島ルート全線開業から100日目を迎えた6月19日、JR九州（福岡市、唐池恒二社長）は熊本駅など主要4駅で「百日「ももか」祝い出発式」を開き、節目を祝った。開業3カ月の利用実績は、博多ー熊本間が前年同期の在来線特急に比べ35%増で、目標の40%増には届かなかったが、大型連休があった5月は42%増、6月（11日まで）は38%増と上昇傾向にある。



▲3月12日の全線開業から3カ月を迎えた九州新幹線。月を追うごとに利用者数は増えている

▼熊本ー鹿児島中央間は関西方面からの観光客利用が好調。写真は3月12日下り一番列車で到着した関西熊本県人会のツアー客を迎える蒲島知事ら



▲高い乗車率を維持する「みずほ」の車内

熊本ー鹿児島中央間は62%増

JR九州が発表した開業3カ月（6月11日までの92日間）の利用状況によると、博多ー熊本間の利用実績は、前年同期の在来線特急に比べ35%増の約21.8万人。一日平均は2万3800人で、目標の40%増には届かなかったが、月別では3月が26%増、4月は34%増、5月は43%増と月を追うごとに増えている。また、熊本ー鹿児島中央間は、関西方面からの観光客利用が好調で62%増の約12.9万人。一日平均は1万4100人だった。

一方、各駅停車で九州内のみ運行する「つばめ」の乗車率は23%と低迷。JR九州では、JR博多シティ・アミューズプラザ博多の買い物券（1500円分）と「つばめ」の乗車券をセットにした新しい割引切符「ビックリつばめ2枚切符」を5500円（片道2000円相当）で発売するなど利用促進策を打ち出している。



九州新幹線と競合するとみられていた福岡ー熊本間を結ぶ高速バス「ひのくに号」が前年を上回る利用者数で好調に推移し、6月からは通勤や買い物需要の多い時間帯を中心に一日8往復増便された。これは、JRの在来線特急が大幅削減されたことで、より安い高速バスに乗り換えていることが大きな要因とされている。このため、「ひのくに号」を共同運行する九州産交バスと西日本鉄道では、6月から8往復増やし、一日計108往復を運行。同区間の九州新幹線は所要時間が最短33分、料金は最安で片道3000円。これに対し、高速バスの所要時間（交通センター博多）は約2時間だが、片道最安料金（回数券利用）は1600円。この料金差に加え、熊本市内や高速道路内にバス停が多く、利便性が高いことなどから、在来線特急利用者の多くが高速バスに流れたと見られている。



▲前年を上回る利用者数で推移している高速バス「ひのくに号」。6月からは通勤や買い物需要の多い時間帯を中心に一日8往復増便された



賑わい続くJR博多シティ

九州新幹線の全線開業に合わせてオープンしたJR博多シティ（アミューズプラザ博多、阪急百貨店、東急ハンズ、ティ・ジョイなど）は相変わらず買い物客などで賑わい、1日の入場者は20万人を超えるという。特に9、10階のレストラン街「てんくう」や地階の食品・菓子売場は混雑が続いている。

▲人気が高い地階の菓子売場「クリ」階屋上で「ミニっはスビー・クリーム・めろ」に乗って楽しもう

▲JR博多シティ11階屋上で「ミニっはスビー・クリーム・めろ」に乗って楽しむ家族連れ

高速バス「ひのくに号」好調

一日8往復増便